

信金中央金庫 田辺光雄理事長

信金中央金庫(東京)の田辺 光雄理事長は、仙台市内で河北新報社の取材に応じた。東日本大震災の被災地で活動するNPOを対象に2015年度に始めた助成について「枠組みを変えて継続的に支援したい」と語り、新制度を創設し、続ける考えを示した。各地の信金には、地域に最も密着した金融機関として地方創生の主役を担うよう期待した。

「被災地を訪れ、ボランティア

アに励む人たち
震災から時間
れ、心のケアや
イーの再建とい
大切になる。

心の復興を

NPO助

トピック
聞く

(聞き手は報道部・田柳暁)
—NPOへの助成を続ける狙



塗料メーカーのシオン(岩手県矢巾町)が防災効果のある木材用塗料を開発した。塗装するだけで、火災発生時に発煙と燃焼を約10分間抑えられる。2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場など、五輪関連施設への採用を目指す。

木材用防災塗料を開発

岩手・矢巾のメーカー

新開発の「ユーオイルプラスファイアガード」は植物油と天然由来顔料を原料とする自然塗料に、ホウ酸系の防災成分を1割程度配合した。

塗装した木片を1800度のバーナーで2分間熱しても炎上しないなど、日本防炎協会(東京)の基準をクリア。国内初の木材用防災塗料としてお墨付きを得た。

現在、木材の防災処理は内部に大量の薬剤を注入するのが一般的。ただ湿気が多いと、薬剤が表面に浮き

五輪会場へ採用目指す

出して結晶化する白華現象が起きることがある。

ファイアガードは白華現象の心配がない上、石油を含む化学系塗料よりも色付きが良く、木目を生かした仕上がりになる。

色のバリエーションは66用意した。風雨に4年以上さらしても色落ちしない。

石川公一郎社長は「ファイアガードを塗装すれば火災時も避難の時間を十分確保できる。燃えやすいという不安を解消できれば木材の活用はさらに広がるはずだ」と強調。

「東日本大震災で被災した岩手発の技術が採用されれば復興五輪のアピールになる。日本らしい木材文化の魅力を五輪という大舞台で世界に発信したい」と意気込む。

新国立競技場はスタンドを覆う屋根に木材を使用するデザイン。聖火台の設置に消防法上の問題が懸念されるなど、防火対策が課題になっている。

ファイアガードは1リットル6000円から。連絡先はシオン019(677)7060。

防災塗料を塗った木片(左)はわずかに焦げる程度。無塗装の木片(右)は完全に燃えてしま

熱戦の舞台 燃え尽き阻止

